

農業技術情報

2022年5月18日

ゆとりみらい21推進協議会指導部会

十勝普及センター十勝東部支所 015-572-3128
JA 幕別町 0155-54-4118
JA さつない 56-2131
JA 帯広大正 64-4591
日甜幕別原料事務所 54-2756
幕別町農林課 54-6605

各作物の生育・作業の遅速(幕別町5月15日)

()内は平年値(※春まき小麦は暫定)

作物名	遅速日数	生育および農作業状況	生育期節
秋まき小麦	早2	草丈 37.1 (33.4)cm 茎数 1,446 (1,376)本/m ²	幼穂形成期 5/1(5/1)
春まき小麦	早4	草丈 26.8 (※17.8)cm 葉数 4.7 (3.3)枚 茎数 1,083 (※491)本/m ²	出芽期 4/23(※4/25)
馬鈴しょ		植付期 4/25 (4/29) 植付終 5/5 (5/8)	
大豆		は種始 5/9 (5/13) は種期 5/15 (5/17)	
小豆		は種始 5/17 (5/16)	
てん菜(移植)	早2	草丈 7.7 (8.1)cm 葉数 6.9 (6.4)枚 移植期 4/29 (5/2) 移植終 5/6 (5/9)	乾燥や強風の影響で活着の遅れや苗の黄化がみられる
てん菜(直播)	±0	は種始 4/17 (4/18) は種期 4/22 (4/25) は種終 5/1 (5/5)	出芽期 5/8 (5/8) 乾燥の影響で出芽の遅れや不揃いがみられる
牧草	±0	草丈 34.4(35.0)cm	萌芽期 4/8 (4/12)
飼料用とうもろこし		は種始 5/4 (5/6) は種期 5/11(5/13)	
たまねぎ	遅 10	葉数 1.3 (2.1)枚 葉鞘径 3.1 (3.7)mm 移植期 4/24 (5/2) 移植終 5/2 (5/11)	

畑作

<麦類>

○秋まき小麦

現在、草丈は平年より高く、茎数は多く推移しています。このまま経過すると止葉期(平年:5月25日)も平年より早まる可能性があります。今後の管理において適期を逃さないよう注意しましょう。

1 除草剤の散布

茎葉処理除草剤は雑草が大きくなり過ぎると効果が劣るので、散布時期を逃さないようにします。除草剤の効果は気温や散布後の降雨に大きく影響されるので、薬剤ごとの特徴を考慮して選択します(表1)。

特に、秋まき小麦の「エコパートフロアブル」は止葉抽出前に使用し、高温時の散布を避けるなど、薬害の発生を防いでください。

表1 麦類の除草剤使用例

薬剤名	処理方法・使用時期・10a 使用量		使用回数	備考
	秋まき小麦(春期)	春まき小麦		
エコパートフロアブル	止葉抽出前まで (収穫 45 日前) 50~75ml	麦の 2~4 葉期 (収穫 45 日前) 50~100ml	2回	展着剤、殺虫・殺菌剤と混用しない。 高温時に使用しない。
MCP ソーダ塩	麦の幼穂形成期 (収穫 45 日前) 300g	麦の 5 葉期 (収穫 45 日前) 200~300g	1回	晴天高温時に散布する(日中 20℃以上)。
バサグラン液剤	麦の幼穂形成期 (収穫 45 日前) 100~150ml	麦の 5 葉期 (収穫 45 日前) 100~200ml	1回	散布後の降雨により効果が劣る。雑草が大きくなると効果が劣る。
ハーモニー DF	【1年生広葉雑草】 節間伸長開始期~ 穂ばらみ期 (収穫 45 日前) 3~10g	小麦の 3~5 葉期 (収穫 45 日前) 3~5g	1回	散布後は必ず専用洗浄剤にてタンクを洗浄する。

2 窒素追肥

止葉期以降の追肥は千粒重の増加に有効です。ただし、止葉期の上位茎数が 900 本/m²以上のほ場では倒伏の危険性があり、葉色が濃すぎる高タンパクを招く恐れがありますので、追肥量や方法は生育に応じて判断してください。

【止葉期以降の追肥法の例】

上位茎数 900 本/m²未満の場合

- ① 止葉期に窒素 4kg/10a を上限として追肥。
 - ★黄化が目立つ場合は 6kg/10a 上限
 - ★高タンパクが予想されるほ場では、止葉期の追肥を行わないか、追肥量を減らす必要がある。
- ② 必要に応じて開花期以降に窒素 3kg/10a を上限として葉面散布で追肥。

(葉面散布例: 尿素 1.5% 液 3回
 ※ 高温時の葉面散布は「ヤケ」やすいので注意
 ※ 高温時は尿素濃度を下げる(例えば 1%に)

上位茎数 900 本/m²以上の場合 (倒伏の危険性が増す)

- ① 必要に応じて開花期以降に窒素 3kg/10a を上限として葉面散布で追肥。(葉面散布例: 尿素 1.5% 液 3回)

3 倒伏軽減対策

茎数が多く倒伏が懸念されるほ場では、茎稈伸長抑制剤の使用を検討します。散布が遅れると効果が劣るため、表2の目安を参考に散布時期を逃さないよう注意してください。また、薬害を助長する場合があるので、他剤との混用は避けましょう。

表2 茎稈伸長抑制剤の使用例

薬剤名	使用時期		使用時期 目安(R4)	使用量 (ml/10a)	使用 回数	備考
サイコセル PRO	秋小麦	出穂前 20～10日 (草丈40 ～60cm)	5/13～5/23	200～ 300	1回	・散布時期が遅れると効果が劣る。 ・高温時期の散布は薬害の恐れがある。
	春小麦	麦の 6葉期前後 (草丈30 ～40cm)	5月下旬～ 6月頭	150	1回	
エスレル 10	秋小麦	止葉期～ 出穂始期	5/23～5/31	200～ 333	1回	30%以上の出穂を見てからでは倒伏 軽減効果が劣る場合があるので適 期に処理する
	春小麦		6/4～6/13			
カルタイム フロアブル	秋小麦	止葉期～ 出穂始期	5/23～5/31	150	1回	過度な抑制を避けるため、使用時 期・使用量を遵守し、多量散布や重 複散布とならないように注意する
	春小麦		6/4～6/13			

○春まき小麦

春まき小麦の播種は適期に終了し水分不足が心配されましたが、平年並みからやや早めに生育しているように見えます。草丈も高いため、適期を逃さないよう除草剤や茎稈伸長抑制剤を散布しましょう(表1・2)。

<てんさい>

移植作業、直播作業は順調に終了しましたが、4月から続く乾燥や4月下旬の強風の影響で苗の黄化や生育の遅れなどがみられます。ほ場ごとの生育に合わせた適期作業を心がけましょう。

1 中耕

- ア 地温の上昇及び透水性の改善(深耕カルチなどの施工)と土壌の膨軟化と畦間の除草のため、「カルチ」などを計画的に施工しましょう。
- イ 中耕の深さは根の広がりを確認し、生育初期には浅めに調整し、次第に狭く深くして畦間が茎葉で覆われる時期まで実施しましょう。
- ウ 中耕時、株元まで土を寄せると根腐病の発生を助長するので注意しましょう。

2 除草剤散布

- ア 除草剤散布のポイントは適期処理にあります。気象条件や土壌水分等を考慮し、生育と雑草の発生に応じた処理に注意してください。
- イ 直播栽培は移植栽培と登録基準が異なるので注意しましょう。
- ウ 直播栽培の初回散布時期は雑草発生始～発生揃(てんさい本葉2葉期)で、は種後30日前後が目安になりますが、てんさいの葉齢が進んでいない幼小個体では生育が抑制される場合があるため、注意が必要です。
- エ 直播栽培の風害対策でえん麦を混植した場合は、えん麦の4葉期までに遅れないようにイネ科除草剤(ナブ乳剤、ワンサイドP乳剤)による処理を行ってください。

3 アブラムシ類防除

アブラムシ類防除は早期に発生させない事が重要で、初期防除が大切です。苗床かん注剤(アクタラ顆粒水溶剤)および直播ペレット種子内殺虫剤の残効期間(約 40~45 日)以後の防除準備をしましょう。

《苗床かん注から残効期間を 45 日とした目安の日》

- 4月 20日かん注 ⇒ 6月 3日頃
- 5月 1日かん注 ⇒ 6月 14日頃
- 5月 10日かん注 ⇒ 6月 23日頃
- ※間隔を空けない様に、防除しましょう

○ 1 回目のアブラムシ防除
「コルト顆粒水和剤」6,000 倍
又は
「モベントフロアブル」4,000 倍

<ばれいしょ>

植付作業は順調に終了し、萌芽期は平年並~やや早い(平年5月 25 日)と予想されます。作業時期を逃さないように、ほ場をよく観察してください。

1 中耕・培土

「カルチ」・「畦間サブソイラ」等により土壌の膨軟化と地温の上昇を図り、通気性や透排水性の向上に努めましょう。

ア 早期培土の注意点

- ・萌芽始までに行いましょう。
- ・培土時の土壌水分が高い場合や培土後2日以内に降雨が予想される場合は、培土にひびが入り緑化いもの発生の原因となるので避けましょう。
- ・培土後、ばれいしょ萌芽前の適度な土壌水分がある時に除草剤を散布しましょう。

イ 慣行培土(中耕)の注意点

- ・萌芽の直前と萌芽1週間後に行い、地温を上昇させ萌芽と初期生育を揃えましょう。
- ・晴天の午前中に行うと効果的ですが、土壌水分が低いと培土が崩れやすく、緑化の原因になる場合があるので、適度に水分がある時期に実施しましょう。
- ・土壌が過湿状態の時にを行うと、土を締め過ぎるので注意しましょう。
- ・培土作業が遅れるとストロンを損傷し、塊茎数の減少や肥大の妨げとなるため、着蕾期までに最終培土を終えましょう。

2 除草剤

土壌処理剤は適度な土壌水分がある時に散布しましょう。

表3 ばれいしょ除草剤使用基準(例)

除草剤名	使用時期	使用量 (ml,g/10a)	使用回数	備考
センコル水和剤	全面土壌散布又は 雑草茎葉散布 植付後~萌芽直前	100	1回	品種(メークイン等)によって葉の黄化等の薬害が生じることがあるので注意する。
ロロックス	全面土壌散布 植付直後~萌芽前	100~150	1回	—
モーティブ乳剤	全面土壌散布 植付後~萌芽前 (雑草発生前)	200~400	1回	—
フルミオWDG	全面土壌散布 植付後~萌芽前 (雑草発生前)	10	1回	・処理時期が萌芽期に近いと薬害を生じる恐れがある。 ・萌芽後に使用すると、薬害が生じるので、必ず萌芽前に使用する。 ※防除ガイド(緑色の本)p23~24 参照

<豆類>

種子消毒は、必ず実施しましょう。

は種は、慌てずに地温が十分確保されてから行いましょう。

1 は種時の注意

(1) 種子に合ったは種板を準備

必ず使用する種子の大きさを確認し、目標とする栽植株数(表4)となるよう粒大に合ったは種板を準備しましょう。

表4 栽植密度の目安

区分	栽植密度 (株/10a)	畦幅×株間の目安 (cm)
小豆※ / 菜豆	8,300	66 × 18 60 × 20

※「きたろまん」は5月下旬は種において、1.2~1.5倍程度(25,100本/10a)までの密植により、成熟期の前進と増収が期待できる。ただし、倒伏が増加する事例があるので生育旺盛なほ場では標準とする。

(2) 種子消毒

ア タネバエ対策

豆類は、次のような条件でタネバエによる被害を受けることがあります。このような場合での種は避けましょう。

○は種後低温が続き、出芽までの日数が長くなってしまう場合

○土壌水分が高い時

○牧草・緑肥をすき込んだほ場

○魚かす・鶏糞・未熟堆肥等を施用したほ場

イ クルーザーFS30(種子塗沫剤)使用時の注意

○必ず殺菌剤(チウラム 80 または粉衣用ペアーカスミン D)と併用し、処理は

クルーザー → 殺菌剤 → 根粒菌 の順とする。

○菜豆・小豆は乾燥するまでに時間がかかるので、早めに準備を行う。

(塗沫後乾燥に要する時間は、菜豆で5~6時間、小豆で1~3日)

ウ クルーザーMAXX(種子塗沫剤)使用時の注意

○殺菌剤との併用は必要ありません。

○クルーザーFS30より乾きにくいので、注意してください。

(3) 出芽率の向上のために

ア は種は地温が十分に上がり、遅霜の影響がなくなる時期に行ないましょう。

イ 土壌の乾燥が予想される場合は、再度鎮圧を実施しましょう。

2 除草剤の散布

例年、散布適期を逸したり除草剤散布後の降雨などの影響で、薬害による生育遅延が見られます。豆類の生育や雑草の発生状況を確認し効果的な散布に心がけましょう(表5)。

表5 豆類除草剤使用基準(例)

除草剤名	処理方法	対象作物	使用時期	使用量 (10aあたり)	使用回数	備考
ビンサイド乳剤	土壌全面散布	大豆 小豆 菜豆	は種後2～5日 (雑草発生前)	330～400ml	1	
コダールS水和剤		大豆 菜豆	は種後出芽前 (雑草発生前)	225～300g	1	
フルミオWDG		大豆 菜豆	は種後出芽前 (雑草発生前)	5～10g	1	「フルミオWDG」は散布に用いた器具類は必ずメーカー推奨の方法にて洗浄すること
ロロックス		大豆 菜豆	は種直後	100～150g	1	
パワーガイザー液剤	雑草茎葉散布 又は土壌全面散布	大豆 小豆 菜豆	出芽直前～出芽揃	200～300ml	1	「パワーガイザー液剤」は有機リン系殺虫剤や他の除草剤との近接散布は薬害の恐れがあるので避ける
		菜豆	出芽直前～出芽期			
バサグラン液剤	雑草茎葉散布 又は全面散布	菜豆	初生葉展開期～ 本葉抽出始期 (雑草2～3葉期)	50～70ml	1	

3 中耕

除草剤の残効を考慮し、地温の上昇と除草のため中耕を実施しましょう。除草のための中耕は、好天で日中の気温が上がる日が効果的です。

4 大豆「わい化病」・菜豆「黄化病」(ジャガイモヒゲナガアブラムシ)の防除

ジャガイモヒゲナガアブラムシが媒介するウイルス病で、山間部やほ場周辺に牧草地がある場合、および春先の温度が高い年は有翅虫の飛来が早まり感染のリスクが高まります。

表6 大豆「わい化病」・菜豆「黄化病」の防除例

病害名	薬剤名	使用濃度	使用時期(収穫前)	回数(以内)
大豆「わい化病」 菜豆「黄化病」	ペイオフME液剤	2,000倍	7日	3回

防除時期:クルーザーを使用していない場合…出芽揃～初生葉展開期に1回目、6月中下旬に2回目

クルーザーを使用した場合…6月中下旬(は種後1ヶ月程度をめぐりに)の1回

野 菜

< たまねぎ >

4月27日の強風直前に移植したほ場においても活着が始まっています。本年は強風および干ばつにより生育が遅れ気味なため、薬量を基準内で抑え、薬害には十分注意してください。

また、かん水が可能な場合は、根域が乾かないうちに5mm以上を目安に実施しましょう。

5月15日現在の作況調査結果

生葉数	葉鞘径
1. 3枚 (平年値:2. 1枚)	3. 1mm (平年値:3. 7mm)

1 除草剤の処理

土壌処理剤は降雨後など適度な土壌水分がある状態での散布が効果的です。ただし、散布後に激しい降雨が予想される場合は薬害を生じる恐れがあるので避けてください。

表 1 移植たまねぎ除草剤の使用基準

薬剤名	処理方法及び使用時期	使用回数	10a当薬量	注意事項
ゴーゴース ン乳剤	全面土壌散布 定植後(雑草発生前) 但し、収穫 30 日前まで	1回	300～ 500ml	同一成分を含むため、 <u>どちらか一剤</u> の使用に限る。
モーティブ 乳剤	全面土壌散布 定植後(雑草発生前) 但し、定植 45 日後まで		200～ 400ml	
ボクサー	雑草茎葉散布又は全面土壌散布 定植後又は中耕後(雑草発生前) 但し、収穫 45 日前まで	2回	400～ 500ml	液肥との混用は、たまねぎの葉に薬害 (癒着)を助長する場合がありますので避ける。
グラメックス 水和剤	全面土壌散布 定植活着後(雑草発生前) 但し、収穫 90 日前まで	1回	30～ 50g	キク科雑草に効果が高い反面、薬害リ スクも高い。薬害を回避するため薬量 を 30～50g/10aとし、涼しい時間帯に 使用する。 砂質土壌での使用は避ける。
アクチノール B 乳剤	雑草茎葉散布 生育期但し収穫 30 日前まで (雑草生育初期)	2回	30～ 50ml	発生後の広葉雑草に効果があるが、 薬害の危険性が高い。 薬量を30～50ml程度とし、6月中旬ま での涼しい時間帯の使用が望ましい。
セレクト乳剤	雑草茎葉散布又は全面散布 雑草生育期(イネ科雑草3～5葉期) 収穫 21 日前まで	3回	50～ 75ml	スズメノカタビラにも優れた効果を示 す。 効果の発現までに時間を要する。

2 育苗ハウスの地力対策

- ・育苗ハウスは、緑肥を栽培することで、地力の向上や乾腐病などの病害の防止により、翌年以降の苗生育が改善できます。
- ・は種量は、緑肥用エンバクで15kg/10a、エンバク野生種(ヘイオーツ、サイアー)で10～15kg/10aです。は種後2ヶ月を目安に結実前にすき込みましょう。
- ・土壌分析を行い、塩類集積が見られる場合は除塩対策を行いましょう。

3 ベタがけ被覆の除去

- ・ベタがけ被覆の除去は、生葉数6葉抽出始め(移植1ヵ月後)が目安です。
- 気温が25℃を超えたら速やかに除去してください。

< キャベツ、はくさい >

害虫の発生に備えて、定植前にジュリボフロアブルをセルトレイにかん注してください。

本年はコナガの早期発生、多発が予想されています。また、モンシロチョウ(成虫)が確認されています。かん注処理から20日が経過した場合は、ほ場を確認し必要に応じて防除をしてください。

表2 ジュリボフロアブルの使用法

薬剤名	害虫名	使用濃度	使用時期	使用回数	RACコード	注意事項
ジュリボフロアブル	アオムシ、コナガ、ヨトウムシ、アブラムシ類	200	育苗期後半～定植当日	1回以内	284A	セル成形育苗トレイ 1箱あたり0.5ℓかん注(1回)

表3 キャベツのアオムシ、コナガの防除薬剤例

薬剤名	使用濃度	使用時期	使用回数	RACコード	効果の発現※1	残効性※2
ハクサップ水和剤	1000～2000倍	前日	5回以内	1B 3A	速	長
アファーム乳剤	1000～2000倍	前日	3回以内	6	速	短
グレーシア乳剤	2000～3000倍	7日前	2回以内	30	速	長
エスマルクDF	1000～2000倍	前日 (発生初期)	—	11A	中	短

※1 効果の発現(目安) 速: 1～3時間程度 中: 1～2日程度 遅: 3～5日以上

※2 残効性(目安) 長: 14日以上 中: 7～14日程度 短: 7日以内

< だいこん >

1 は種時の害虫防除

本年は乾燥条件で推移しているため、キスジノミハムシの多発が心配されます。は種時に粒剤の散布を行ってください。

表4 害虫の防除薬剤例

薬剤名	害虫名	使用方法	使用時期	使用回数	RACコード
ダズバン粒剤	キスジノミハムシ タネバエ	9kg/10a (播溝土壌混和)	は種時	1回以内	1B
フォース粒剤	キスジノミハムシ タネバエ (播溝土壌混和)	6～9kg/10a (全面土壌混和) 4～9kg/10a (播溝土壌混和)			3A
ネマトリンエース粒剤	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	15～20kg/10a			1B

< かぼちゃ >

1 ほ場条件

- ・初めて作付けするほ場では、ヘプタクロル(殺虫剤の一種)の検査を実施してください。
- ・深根性で吸肥力が強く、乾燥にも強いですが、過湿には弱いため、排水対策としてサブソイラ等を施工してください。
- ・土壌pHが低い場合は、pH6.0～6.5を目標に酸度矯正を行いましょう。

2 保温、保水対策

- ・「定植(は種)5～7日前」かつ「適切な土壌水分があるとき」にマルチを張り、地温と水分を

確保しましょう。

・早い時期の定植については、べたがけやトンネルなどで霜対策を行いましょう。

3 直播栽培

・は種期は5/25～6/5頃が目安です。は種穴に1粒まきで、は種の深さは1～2cmとします。欠株対策として、必ず補植用苗を用意しましょう。

< ながいも >

1 除草剤の処理

植付直後から萌芽前までに土壌処理剤を散布してください。

表5 ながいも除草剤の使用基準

薬剤名	処理方法及び使用時期	10a 当薬量	使用回数	注意事項
ゴーゴーサン乳剤	全面土壌散布 植付後～萌芽前 (雑草発生前)	200～400 ml	1回	—
ロロックス	全面土壌散布 植付直後	100～200g	2回	① 植付直後と生育期をあわせて総使用回数は2回以内。 ② 砂質土で透水性のよいほ場では散布を避ける。 ③ マルチ栽培では薬害を生じる恐れがあるため使用しない。
	畦間土壌散布 (雑草発生前～発生揃期) 生育期 但し収穫 60 日前			

農薬のドリフト防止対策

この時期に使用の多い除草剤でドリフトが起こると、作物の生育に障害が出ます。農薬の散布時には注意しましょう。

《 ドリフト防止のポイント 》

- ① 風のない時を選んで散布する。
- ② 散布機の圧力を適切に設定し、細かい粒子の発生を抑える。
- ③ ドリフト低減ノズル等、適切なノズルを選択する。
- ④ 対象作物だけにかかるよう、できるだけ作物の近くから散布する。
- ⑤ 散布量が多くなるほど飛散する場合が増えるので、散布量は適切に設定する。
- ⑥ 使用した農薬がタンクに残らないよう、散布機の洗浄はしっかりと丁寧に行う。

